

スクールソーシャルワーク論

《担当者名》 福間 麻紀 m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp 富家直明(心)

【概要】

今日の深刻化する教育現場が抱える課題や子どもたちを取り巻く問題状況の解決に、スクールソーシャルワーカーを導入する意義を学ぶ。また子どもの最善の利益と教育保障に貢献するスクールソーシャルワーカーの実践理論と支援方法を学ぶ。

【学修目標】

1. 教育現場にソーシャルワークが導入された背景、意義を理解し、教育と福祉の連携の必要性を考察することができる。
2. 子どもや家庭を取り巻く問題状況やニーズ、支援課題についてミクロ・メゾ・マクロの視点からとらえることができる。
3. スクールソーシャルワークの目的や価値に基づいた、具体的な支援方法を考えて述べることができる。
4. 多職種連携について、多職種の理解を深め、実践的な協働の方法を説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	わが国のスクールソーシャルワーカー導入の背景と意義	スクールソーシャルワーカーの概要を説明できる。 今日の学校教育現場が抱える課題と実態について列挙できる。 スクールソーシャルワークに関連する国の施策・法律について理解する。	福間
2	子どもを取り巻く環境（学校・家庭・地域）の理解1	不登校や高校における中退問題の概要を説明できる。 不登校に関する法令や制度の変遷、支援方法を理解する。	福間
3	子どもを取り巻く環境（学校・家庭・地域）の理解2	いじめ、暴力行為の概要を説明できる。 いじめの定義や関連する制度の変遷、支援方法を理解する。 学校と家庭の協働によるいじめの対応について検討する（グループワーク）。	福間
4	子どもを取り巻く環境（学校・家庭・地域）の理解3	児童虐待、特別支援教育の概要を説明できる。 ヤングケアラーに関する政策動向と支援の実際を理解する。	福間
5	スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理	スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理について説明できる。 子どもの人権について説明できる。	福間
6	スクールソーシャルワークの発展過程	アメリカや諸外国及び日本におけるスクールソーシャルワークの歴史的発展経過を概説できる。 現在の諸外国のスクールソーシャルワーカーの役割と活動を学び、日本のソーシャルワークの現状と比較できる。	福間
7	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル）	個別支援と集団支援に必要な視点について理解する。 実践例を用いて、具体的な支援方法を学ぶ（不登校、発達障害）。	福間
8	スクールソーシャルワークの支援方法（メゾレベル）	スクールソーシャルワーカーの校内支援について理解する。 関係機関を含む社会資源の特徴と役割を説明できる。 ケース会議の実際について理解する（動画視聴）	福間
9	スクールソーシャルワークの支援方法（マクロレベル）	ミクロ・メゾ・マクロの視点を用いた子どもと取り巻く環境を理解する。 子どもの貧困に対する学校・地域の社会資源・アプローチを学ぶ（グループワーク）。	福間
10	スクールソーシャルワークの実践1	スクールソーシャルワーカーの実践と学校を含む関係機関との連携について理解する。 ○レポート課題1	福間 古原祥子（特別講師）
11	教師や学校・教育機関の理解と協働	学校や教育機関の仕組み・教師の職務への理解を深め、教師との協働による支援について実践的に理解す	福間 花田貴章（特別講師）

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		る。 ○レポート課題2	
12	スクールカウンセラーの理解と協働	教育現場でともに支援を行うスクールカウンセラーについての理解を深め、スクールカウンセラーとの協働による支援について実践的に理解する。 ○レポート課題3	富家 福間
13	スクールソーシャルワークの実践モデル	スクールソーシャルワークの実践過程と実践モデル（システム理論、生態学的視点、ストレングス視点、エンパワメント視点）を概説できる。	福間
14	スクールソーシャルワークの実践1	非行・発達障害・児童虐待に対するスクールソーシャルワークの実践を理解する。 ○レポート課題4	福間 梶原敦（特別講師）
15	スーパービジョンまとめ	スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョン体制と方法について学ぶ。 スクールソーシャルワークの今後の課題と展望を理解する。	福間

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート課題1～4（各10%） 最終レポート（60%）

【教科書】

使用しない。教員が作成するレジユメに従って学習する。参考文献等については、その都度、紹介する。

【参考書】

日本学校ソーシャルワーク学会編「スクールソーシャルワーク養成テキスト」中央法規（2008）

【備考】

教職課程では「大学が独自に設定する科目」に該当する。スクールソーシャルワーク教育課程では専門科目群「スクール(学校)ソーシャルワーク論」に該当する。

【学修の準備】

- ・ 予習として、スクールソーシャルワークに関連する報道について日頃より関心をもってチェックし、報道に対する自らの見解を持つように努めること。また、次回の授業テーマに関する、教員が指示した内容について事前に調べてくること。（2時間）
- ・ 授業後は要点を整理し、分からない点は自分で調べるとともに、次回の授業までに担当教員に確認すること。（2時間）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1：人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実務経験】

福間麻紀（社会福祉士・スクールソーシャルワーカー）、富家直明（公認心理士・スクールカウンセラー）

【実務経験を活かした教育内容】

福間：スクールソーシャルワーカーとしての実務経験を活かした教育を行う。

富家：公認心理士としての臨床実務経験（スクールカウンセラー）を反映させた教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している